令和6年度 学校経営計画・学校評価

■4月4日提出　■10月3日提出　■3月14日提出

学校番号	7	山田　高等学校	課程	全

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ・基本的生活習慣や規範意識を身に付けている生徒 ・目標に向かって粘り強く努力する生徒 ・社会に貢献する意欲を強く持っている生徒 ・部活動、生徒会活動等に主体的・協働的に取り組む生徒 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) 【グローバル探究科】学びの基本姿勢を身に付け、簡単に答えが見出せない「問い」に対して根気強く探究する力 【ビジネス探究科】起業家精神を身に付け、主体的に課題を見つけ、探究し続ける力 【普通科】他者と協働する姿勢を身に付け、主体的に課題を見つけ、探究し続ける力		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) 【グローバル探究科】・難関大学(理系・文系)進学に対応できる選択科目を設定・大学や専門機関等と連携した科学的な根拠に基づく探究活動・異国文化理解や海外の学校との国際交流活動・出前授業や講演など、大学・企業等と連携した教育活動 【ビジネス探究科】・学科に関連した大学から就職まで、幅広い進路に対応できる選択科目を設定・地域に密着した商品開発、ビジネスプランの立案、販売実習を行う探究活動・出前授業や講演など、企業・大学等と連携した教育活動・商業に関する学科の特性を活かして、各種資格取得・検定合格を目指す 【普通科】・大学(文系)から就職まで、幅広い進路に対応できる選択科目を設定 ・1年生で、インターンシップ、CMづくり、市への政策提言を行う探究活動・2年生で、県への政策提言を行う探究活動・出前授業や講演など、企業・官公庁等と連携 【三科共通】探究の成果を校内外で主体的かつ積極的に実践・発表する	

学校関係者評価

【学力の向上】 評価 【 A 】

探究学習の成果と入試方式との接合を検討している点に積極性を感じる。進路への意識づけに県内国公立大が実施している模擬授業なども活用してはどうか。ただ「学力」は国公立大学進学率などの目標数値ありきで生徒に圧力をかけると、探究で育てようとする学力の本来の趣旨とのずれが生じるので注意が必要である。

【社会性の育成】 評価 【 A 】

目標に対して高い成果が上がっている一方で、育成を目指す資質・能力の指標が適切なのかどうかも見直す必要がある。評価内容に多様性・包摂性が含まれていることは評価できるが、その他にも、自身の意見を適切に主張できる、意見を調整できるなどの視点もあるとよいのではないか。地域貢献活動が活発で地域とのつながりが深い点は評価できる。

【チーム学校】 評価 【 A 】

ガバナンスが効いており評価できる状態にある。生徒に対して手厚く指導・支援をしているからこそ教員の時間外労働が多くなっていると受け止めているが、少しでも負担が軽減できるような仕組づくりは必要である。中学生に向けては体験入学だけでなく、日常的に学校内での交流等もできるとよい。

(評価)A:目標を十分に達成　B:目標をほぼ達成　C:やや不十分　D:不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】		見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	【現状】 ○C層以上の生徒の割合 入学時よりも増加している ○将来のための勉強をしている生徒 全学年80%以上となっている ○授業外学習をしない生徒の割合(基礎力診断テスト学習力調査) 1、2年課題がある 【目標】 ・高校1年生2回目におけるAB層の生徒割合30%以上・高校2年生2回目におけるC層以上の生徒の割合65%以上、及びAB層の生徒の割合30%以上 ・県オリジナルアンケート1年2回目「授業外学習をほとんどしない」生徒の割合:30%以下 ・県オリジナルアンケート2年2回目「授業外学習をほとんどしない」生徒の割合:35%以下	・提出物を必ず提出させるとともに授業外学習(家庭学習)習慣の定着を図る ・自主学習の充実(宿題、小テスト、単元確認テストの実施) ・探究活動と各教科との関連をより一層意識させることにより教科学習への意欲向上につなげ、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる ・具体的な支援策を見える化するとともに、模試結果等の情報を各教科、学年団などで共有し、さらに対策を検討する	C	①基礎力診断テスト1回目 □1年のD3層は例年と同じく全体の4分の1程度であるが、C層以上の増加がみられる ■2年はAB層が増加したもののD3層も増えており、二極化の状況にある ②ベネッセ総合学力テスト7月(3教科総合) ■平均点偏差値は1年、2年ともに昨年度よりも3～7ポイント減少している ③国公立大学　受験予定者数 ④県オリジナルアンケート1回目「授業外学習をしない」 ■学力状況、学習習慣、国公立大進学への気運が昨年度より弱い	・当初に設定した取組内容を徹底 ・基礎力診断テスト、模擬試験の結果分析、課題提出、進学補習、授業外学習時間等に関しての状況把握と具体的手立ての共有を図る ・すらら活用による授業外学習習慣の定着 ・個別指導の徹底による進学実績の向上 ・自習室の積極活用 ・公開授業週間を活用した授業改善 ・探究の成果を生かせる入試方式の研究と、1、2年生の進路への意識付けを行う	B	①基礎力診断テスト2回目 □1年はAB層が昨年度程度に増加し、D3層は昨年度より減少しており、基礎学力の引き上げはできている ■2年生は1回目と比較してD3層の減少がみられなかった ②ベネッセ総合学力テスト1月(3教科総合) 【普通科・ビジネス探究科】 □普通科1年、2年ともに平均点偏差値50以上の生徒がおり、上位層の学力は伸びている 【グローバル探究科】1年平均点偏差値50以上の生徒の割合は1年で30%程度、2年で60%を超えており、次年度に向けての指導を継続していく ③国公立大学合格者 ■国公立大学者は全体の9%である。次年度も20%を目標に取り組んでいく ④県オリジナルアンケート2回目「授業外学習をしない」 ■授業外学習習慣に課題がみられる	・探究で得た力を入試及びその先のキャリア形成に生かせるよう進路への意識付けを早期から行う ・模試結果等の情報を全教員が共有し、適切な進路指導を早期から行う
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	【現状】 探究学習を進めるなかでかかわる力は身に付いている 【目標】 ①県オリジナルアンケート「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」割合90%以上 ②学期末の出席状況における皆勤の割合20%以上	・学年集会及びホームルームにおいて、貫徹精神を持つことの大切さを理解させる ・生活習慣の確立を目指し、生徒支援委員会等で生徒個々の情報と手立ての共有を図る ・探究活動を通して一層チームワークの強化を図り、クラス運営に反映させる	B	県オリジナルアンケート1回目「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」 □全学年90%を超え良好な状況にある □生徒情報と手立ての共有を密に行い、SC、SSW、医療機関とも連携しながら支援を行っている	・学年団・ホームにおける指導の充実 ・地域貢献活動やボランティアの機会を豊富に提供する ・生徒支援委員会で生徒の状況、具体的支援方針について検討し、全体に共有していく ・研修等により多様な背景・特性を踏まえた包括的な教育への理解を深める	A	・県オリジナルアンケート2回目「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」 □全学年で90%を超えており、良好な状態にある ・皆勤割合 ■3年では低い割合にとどまり課題がみられる □SC、SSWを十分に活用し、医療機関や行政と連携しながら支援を行った □インクルーシブ教育に係る校内研修や山田特支との連携により、支援の必要な生徒が落ち着いて学校生活を送れるようになっている	・ユニバーサルデザインの教室づくり、授業づくりを行う ・SC、SSWと連携し、生徒支援を行う
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	【現状】 県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするため実際に行動している」割合は、2年以外は、50%に届いていない 地域との関係は良好である 【目標】 県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするため実際に行動している」割合45%以上 教員の専門力向上をはかる研修会への参加	・地域貢献活動やボランティア活動への参加機会を多くつくる ・地域学校協働活動推進員の積極活用	A	県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするため実際に行動したことがある」 □地域貢献活動には多くの生徒が参加している □探究学習において地域学校協働活動推進員の活用ができている	・多くの生徒に地域貢献活動やボランティア活動への参加を促す ・地域学校協働活動推進員を積極活用する	A	・県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするため実際に行動したことがある」 □地域貢献活動に参加する生徒が増加しており、社会参画意識が醸成されてきている □地域学校協働活動推進員の活用や地域人材の活用ができている	・探究活動を通して引き続き地域貢献の意識を育成していく
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	・各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した回数:各教科学期に2回 ・公開授業週間に参観し、参観シート(年2回以上)を提出する ・総合的な探究の時間の成果物のうち、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けている成果物の割合50%以上	・学力向上検討委員会での情報共有 ・教科会の充実 ・外部講師を招聘しての研究授業及び研究協議の実施 ・教員間の相互授業参観の充実 ・好事例の共有	B	□短期留学生2名の受け入れ □普通科は外部講師を活用しての探究学習を実施 □ビジネス探究科は起業家育成プログラムの授業を継続中 □地元商店街のイベント等で地域に貢献する活動を実施 ■他教科の教員間の相互授業参観が少ない	・ハイスクールプラン、産業教育技術者活用事業も含め、外部講師による専門的な授業を予定 ・ビジネス探究科は地元量販店や高知市内の商店街での販売実習を計画し、地域の魅力を発信する活動を続けていく ・普通科は3市長への提言を行う	A	・ラーゴ高校への短期留学参加者10名 ・ビジネス探究科生徒が「第34回全国産業教育フェア栃木大会全国高校生ビジネスアイデアコンテスト」で奨励賞を受賞 第39回高知県地場産業大賞次世代賞を受賞 ・「よってたかって生涯学習フォーラム」で探究成果を発表 ・年間2回の公開授業・相互授業の実施 □各教科の学びが探究の学びに活かされている	・普通科の探究学習のブラッシュアップ ・短期留学生の受け入れ ・台湾への修学旅行に向けた教科横断的な取組

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】		見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○探究活動の推進 ○志願者数の増加	・各種発表会等で探究成果を発表し、県内に発信できている ・A日程入試における地元中学校からの出願率25%以上 ・A日程入試におけるグローバル探究科の出願数15人以上 ・学校HPの更新週1回以上	・広報活動推進 ・学校説明会実施 ・進路実績 ・卒業生による探究活動の成果発信	A	・中学生一日体験入学参加生徒数233名(R5年度225名) ・学校説明会等で3学科の生徒が中学生や保護者等に向けてプレゼンを実施 ・「高校生の放課後てれび部山田高校編」で学校の活動を紹介 ・オープンスクール(8月28日～30日)参加者65名(R5年度45名) ・第1回学校運営協議会(9月)	・広報活動の充実(グロ探通信、グロ探インスタ、学校HP) ・グローバル探究科1年中間発表の保護者への公開 ・第2回学校運営協議会(3月) ・次年度の海外修学旅行に向けての準備	A	・グロ探通信年間11号発行、グロ探インスタフォロワー359人(R7.3.11時点)、広報Kamiの隔月連載 ・女子陸上部が第36回全国高等学校駅伝競走大会で14位 ・令和7年度グローバル探究科・ビジネス探究科2年の修学旅行先を台湾に決定 □広報活動の充実が奏功しA日程での志願者は全学科で増加した □地元中学校からの出願率が向上した	・広報活動を推進する(インスタ、ホームページ、広報誌) ・3科の取組・成果の発信 ・高知工科大学外国人講師によるアドバンスト講義の実施 ・3学科の生徒が中学校を訪問しプレゼンを実施する形式の学校説明会を充実させる
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	・日常の業務に負担を感じている教員がいる ・校内研修を年3回実施する ・不祥事防止委員会を年2回実施する	・挨拶の励行 ・不祥事防止に関する情報の共有 ・面談時での状況把握と積極的声掛け	B	・校内研修の実施【特別支援教育・不祥事防止】(全定合同)	・挨拶の励行 ・職員間でのコミュニケーションを図る ・不祥事防止研修の実施 ・不祥事の事例等の情報の共有 ・面談時での状況把握と積極的声掛け ・職朝での注意喚起	A	・職員朝礼での注意喚起を頻繁に行った ・校内研修を年間3回実施した ・日常的な声掛けを行い教職員のメンタル面の状況把握に努めた	・スクールロイヤー活用事業により、生徒及び保護者対応に係る教職員研修を実施する ・次年度以降も積極的な声掛けと協働体制の構築に努める
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○教育に対する情熱を持ちながら、合理的かつ協働的に業務に取り組む職場環境を整備する。	・時間外労働時間の総計平均月45時間以内	・原則19時前の退勤に努める ・水曜日を部活動休養日とするとともに、週休日の部活動は顧問間で交代しながら指導する ・衛生委員会を開催し、職員の健康管理を行う(毎月)	B	・時間外の長時間労働の教員数は、年度当初と比較してやや減少 ・運動部活動支援員の活用(剣道部、ソフトテニス部、男子バレー部)	・ICTの活用による業務削減 ・連絡会や職員会等で情報共有 ・職員同士での声かけやフォロー	B	□時間外長時間労働の教員数は、年度当初と比較して減少傾向にある □追加募集により女子バスケ部にも運動部活動支援員を活用できたため顧問の業務負担減につながっている	・業務の整理と見直しを行う ・自動採点システムや生成AIなどICT活用による業務効率向上を推進する